

海外にはない？「いただきます」

「いただきます」という言葉は、日本人なら誰でも知っている身近な日本語だと思います。では、外国に行ったらなんて言えばいいの？なんて皆さん考えたことがありますか？英語なら「Enjoy your meal（食事を楽しんでね）」、フランス語であれば「Bon Appetit（たくさん食べてね）」、スペイン語は「Comamos（食べましょう）」と一般的に使われています。「いただきます」と普段から使っている日本人は違和感を感じていることだと思います。その違和感がとても重要です。欧米や他の外国では食事前の挨拶はあっても「いただきます」のように言葉から感謝や謙虚さは感じられないのです。それが私たちには違和感として感じられるのです。

自然の恵・命をいただくという考え方やそれまでの過程において携わった多くの人たちへの感謝、食べられることが有難いことだという謙虚さなど、体温を感じるような温かみがこの言葉にはあります。食を通して命とのつながりを感じられる大切な言葉であり、現在もそしてこれからも伝えていくべき美しい言葉です。

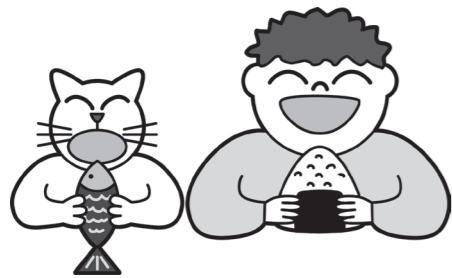
私たち(社)深谷青年会議所では、一年間この言葉を中心にとらえ、さまざまな事業に取り組んできています。事業を通じて皆様に命のつながりを感じていただき、感謝と謙虚な気持ちをもう一度思い出していただきたいと考えております。



取り組み その①

7月2日に木村まさ子氏を講師に招き深谷市民文化会館において講演会を開催いたしました。500名を超える市民の方が参加し、「いただきます」とは？を共に考えました。

木村まさ子氏からは「私たちは動植物の命をいただいて生きており、いただくことを意識して食べることがいかに大切か、さらにそのことを次の世代へきちんと伝えていくことが大切である。そして、言葉には不思議な力があり、言葉を口に出して体感することが大事である。」といったことを教えていただきました。



取り組み その②

木村まさ子氏の講演会において約400名の市民の方からアンケート調査をしたところ各世代により「いただきます」に対する考え方、イメージに違いがあることが分かりました。年配の方たちは「いただきます」とは当たり前での考え方であるとし、若い方は改めて気づかされた、また意味が分からない、考えたことがなかった、などの意見をいただきました。

各世代によって「いただきます」という言葉の捉え方が異なっている現状を認識することができました。



取り組み その③

では、実際皆さんは「いただきます」をどう考えているのか？どのような意味でとらえているのか？他人の考え方は？ということで調査してみました。

「いただきます」をどう考えているの？調査結果

- ・命をいただく事
- ・作ってくれた人に対する言葉
- ・ごはんを食べれる事についての感謝
- ・生きてる証
- ・わからない
- ・動植物の命に感謝する意味
- ・食事自体に対する感謝の意味
- ・意味というかマナー
- ・親への感謝

被災地でアンケート「いただきます」とは？とのインタビュー調査を行いました。

- ・食事を食べることができるとの感謝の言葉
- ・生命と作ってくれた人へいただくという意味で
- ・食物への感謝・周囲の人への感謝
- ・生産者・料理を作ってくれた人への感謝



「いただきます」から「ITADAKIMASU」へ

最近では「MOTTAINAI」という言葉が海外でも使われはじめ、海外の多くの人にその考えが広く伝わっているという報道を御存知でしょうか？この背景には「MOTTAINAI」という言葉が、海外の言葉では翻訳できないという実情が隠されております。もちろん「モノを粗末にしてはいけない」「モノを大事に使おう」という気持ちは世界共通ですが、それに当てはまる言葉が海外ではほとんどなかったのです。

私たちは命のつながりを考えていく中で、同じように「いただきます」もまた、翻訳できない言葉であると信じるに至りました。食べ物をいただくという行為には、それに関わる多くの生命があり、そのことに感謝して謙虚であろうという姿勢が見て取れます。

しかしながら、現在の私たちはそのような感謝の気持ちを忘れがちであり、言葉の持つ謙虚さや美しさというものに気付かず、時には口に出すことさえも忘れてしまう傾向にあります。あるいは、仏教の教えが語源だとして、口に出すことを敬遠する人もおります。現在は昔の生活とは異なり、食生活が豊かになり多忙で合理的な日々で溢れています。そういった中で「いただきます」という言葉は時代の中で、単に食前の挨拶という位置に定着して行くのでしょうか？

私たちはそうは思いません。むしろ現在のような時代だからこそ多くの人に「いただきます」のような、謙虚で美しい言葉を感謝を込めて口にしていただきたいと考えます。

この言葉の持つ感謝の意、そして姿勢、これらは日本が世界に誇るべき言葉であると同時に、時代の流れにも揺るぐことのない、大なる可能性を持っていると考えます。そこにさまざまな偏見があることも確かです。しかし、それらを取り払い、グローバルな可能性を秘めた新たな言葉「ITADAKIMASU」として、多くの人々に感謝の気持ちを思い出していただき、広く口に出していただきたいと考えます。

一人ひとりの感謝と謙虚な心が一つになり、大きな運動となっていくよう、私たち(社)深谷青年会議所ではこの「ITADAKIMASU」運動を今後も展開していきたいと考えております。